

西中生徒指導だより

2021. 11.24

第 7 号

西岐波中生徒指導部

交通ルールを考える

学校生活については、節度ある落ち着いた生活ができています。交通マナーについては課題があります。特に気になるのが自転車と自動車との接触・衝突事故です。自転車の乗り方についての地域からのお気づきの電話もあります。内容は、「自転車が狭い道を並進している。」「両サイドに避けるので困る」「車が近づいても全く避けない」「一旦停止をしない」「坂道をスピードを落とさずに通過する」などです。学校では、その都度指導を行っていますが、残念ながら改善されないのが現状です。このことを踏まえて、ご家庭でもご指導いただきますようよろしくお願いいたします。

交通ルールを知って守ろう！！

「自転車安全利用五則」というのはご存じでしょうか。警察庁が自転車に乗るときに守るべき交通ルールを分かりやすく伝えるため、特に重要なものを5つにまとめた基本的なルールといえるものです。

- ①自転車は、車道が原則、歩道は例外
- ②車道は左側を通行
- ③歩道は歩行者優先で、車道寄りを徐行
- ④交通ルールを守る

・飲酒運転は禁止

・二人乗りは禁止

・並進は禁止

・夜間はライトを点灯

・交差点での一時停止と安全確認

・信号を守る



並進可の標識



- ⑤子どもはヘルメットを着用

12月の全校集会で交通安全指導を行う予定です。冬休みも近づいており、自転車に乗って出かける機会も増えてきます。ご家庭におきましても、自動車から見た自転車の姿などを話してあげるのもいいのかもしれません。



一旦停止



自転車横断帯

いじめアンケートについて

いじめアンケートのご協力たいへんありがとうございました。アンケートに関しましては、いじめ防止対策推進法第28条に示されています「重大事態」に該当する事案はありませんでしたが、「冷やかし」や「からかい」「友人関係のもつれ」など日常生活の中で起こるトラブルは存在します。また、「困った時に相談する人がいますか?」という項目に関しましては「いません」と答えた生徒がいるのも気になります。思春期は多感な時期であり、気持ちの浮き沈みが激しく、保護者の皆さまもどのように接すればよいか戸惑われることも少なくないかもしれません。

反抗期とは

中学生になると「自分はどんな人間なのか」を客観的に見られるようになってきて、将来なりたい自分の姿も具体的にイメージするようになってきます。ところが、中学生である自分はまだまだ未熟な面も多く、自分が理想とする将来の姿とのギャップをどう埋めたら良いのかがよく分からなくなり、イライラするようになってしまいます。このように感情が大きく動きやすいときに、例えば保護者や教師などの大人から子ども扱いをされてしまったり、あるいは大人たちの言動の矛盾に気づいてしまったりすると、いつも以上に反発してしまうことがあります。これが反抗期と呼ばれる精神状態です。

心が動きやすい中学生時期におすすめの過ごし方を紹介しますので、ご家庭でも話題にしていだければと思います。

- ①寝る前に一日の出来事を振り返ってみよう

・客観的に自分のことを振り返ることで気持ちを整理し、落ち着かせることができます。

- ②いろいろな人と話をしよう

・友だちでも大人でもかまいません。話をすることで気持ちを落ち着かせることができます。

- ③自分だけのリラックス方法をみつけよう

・音楽を聴く、お風呂に入る、ランニングをするなど、自分にあったリラックス方法を持ちましょう。